

## ちよだ生物多様性推進プラン(改定素案)に対する意見概要及び区の考え方

No.	意見概要	区の考え方	意見提出者の区分
第2章 基本的な考え方と目標			
2.5 2050年将来像・2030年目標			
1	①前回までの推進プランは千代田区らしさが不足していると感じていたもので、2030年目標に「千代田区ならでは」という文言が含まれていることは素晴らしいと感じた。NbSやネイチャーポジティブ、Well-beingなど、多少、流行の言葉に敏感になりすぎていると感じるが、これも新しもの好きの千代田区らしさといえるかもしれない。	①推進プランへの賛同のご意見として受け止めさせていただきます。	区内に住所を有する方
戦略Ⅰ 皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化			
2	①他の自治体との連携の強化に関する明確な実施項目が示されていない。情報共有の段階から、一歩進み、より大きな絵を他の自治体と共有し、実行に移していく段階ではないか。	①まずは戦略Ⅰ「皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化」において、皇居の豊かな生態系を近隣区に広げていくために、近隣区の関連計画と整合をとり連携しながら進めてまいります。また、その他の行動計画においても、必要に応じて国や他の自治体への働きかけ・連携・調整を行いながら、計画を実行してまいります。	区内に住所を有する方
3	②生態系ネットワークの将来像における図中の矢印について、「中央区緑の基本計画」と整合をとり、首都高速道路上ではなく昭和通りや中央通りにかかる矢印と修正いただきたい。	②内容を精査し、ご指摘のとおり矢印の位置を修正いたします。	その他計画等に利害関係を有する方
4	③生態系ネットワークの将来像に記載されている「将来ハイラインが期待される東京高速道路(KK線)」のうち、「ハイライン」の用語を使用することが正しいのか改めて確認してほしい。また、位置の出典を明らかにしてほしい。	③「将来緑化が期待される東京高速道路(KK線)」に修正するとともに、位置を示すために参考とした資料を出典として明記します。	その他計画等に利害関係を有する方
Ⅰ-1 区内にとどまらない生態系ネットワークが多様な主体の連携により形成・強化されています。			
行動計画2 生態系ネットワークの強化に寄与する緑地・水辺の創出、維持管理をあらゆる主体が推進します。			
5	①区内のまちなかでも野生の植物が育つ場所があったが、掘り返され園芸種が植えられたり、石で覆われるなどしてなくなってしまった場所がいくつかある。野生の植物はそれ自体が貴重であり、残す工夫・取組みを進めてもらいたい。区がより生き物に優しい地域になれるよう、自分もさらに行動していこうと思う。	①区内の貴重な自然環境を守り、生物多様性の質を向上させていくため、区では地域性種苗、在来種の植栽を促進しています。引き続き、多様な主体に向けて情報発信していくとともに、戦略Ⅰで掲げる「生態系ネットワークの形成・強化」の取組みを進めてまいります。	区内に住所を有する方
行動計画4 外来生物の侵入拡大を防ぎ、愛護動物を責任もって飼育します。			
6	①外来生物との向き合い方の方針が曖昧であると感じた。緑の回廊(コリドー)を經由して、区内で広がり、区外からの侵入の恐れもある。また、種によって適切な対策が異なること、外来生物を餌にする在来種への影響も踏まえること、など丁寧な対応が必要である。その際には、専門家意見だけでなく、区民が外来生物対策についてどうあるべきと考えているのか、意見を聞き、対策に反映していただきたい。	①改定にあたっては、生態系ネットワークの形成による外来種の拡がりについて議論したうえで、戦略Ⅰ-1行動計画4において外来生物への対策について取組みを掲げています。2030年の状態目標を「特定外来生物(条件付きを含む)の確認箇所が令和4年度自然環境調査で確認された調査地点数から減少している」としており、区内もしくは区外から侵入の恐れのある外来生物の種や生活史、侵入経路、拡がり方を踏まえ、専門家、区民をはじめ関係機関と連携して取組みを実施してまいります。	区内に住所を有する方

No.	意見概要	区の考え方	意見提出者の区分
	戦略Ⅱ 自然共生社会を意識した行動の浸透		
	Ⅱ-1 生物多様性を守り育てる行動が次世代に引き継がれています。		
	行動計画1 多様な主体と連携した体験学習の充実や学校教育を通して自然と共生する心をはぐくみます。		
7	①子どもが「生物多様性への理解」を深めるイベントを民間企業の事例などを参考に検討していただきたい。	①改定にあたっては、生物多様性の向上とともにそれに取り組む人材育成、特に次世代教育を強化していくことを掲げています。学校教育のほか、区が民間事業者や地域団体等が実施する自然体験活動とも連携し、区民参加型モニタリング調査「千代田区生きものさがし」や「ちよだ生物多様性大賞」等、児童や保護者が自然とふれあえる機会を広く活用いただけるよう、広報紙において効果的にPRしていきます。	区内に住所を有する方
	Ⅱ-2 環境に負荷を与えることが少ない消費行動が根付いています。		
	行動計画1 環境への負荷の軽減を意識した行動や事業活動を推進します。		
8	①エコロジカル・フットプリントの見える化について、想像する算定結果から「日本で一番、環境負荷の大きな都市」になるだろうと考える。世の中にこの実情を宣言してよいのか疑問がある。エコロジカル・フットプリントの計算が本当に必要なのか、計算結果が出た先に私たち区民はそれをどのように受け止め、次の施策にいかしていけるのか、もう少しよく考えてから実施すべき課題である。	①区外からの資源・エネルギーを多く消費する区であるからこそ、区民に向けて環境負荷軽減を働きかけていくことは責務であると考えています。情報発信の一つの指針としてエコロジカル・フットプリントを活用し、見える化にあたっては、専門家等の意見・協力をいただきながら対象範囲や内容を検討し、実施・情報提供していきます。	区内に住所を有する方
	全般的事項		
9	①千代田区の人口動態を考慮すると、6万人強の在住者に対し、100万人以上の在勤・在学者、来街者が毎日過ごしている、世界でもまれにみる特殊なエリアだと言える。その中心に自然の宝庫とも言える皇居を拝している。この地域的な特性を活かし、生物多様性に十分配慮したまちづくりをすすめる内容としてほしい。 また、そのための公民連携の形についても、実効性のあるものとなることが大切であるとする。特に、在勤・在学、来街者に対し、配慮や協力を強く求めることも大切、加えてコンセプトに「ネイチャー・ポジティブ」をさらに超えて「プラネタリー・バウンダリー」や「プラネタリー・ヘルス」などを明記してはどうか。	①千代田区ならではの自然や地域特性を活かした取組みについては、戦略Ⅰ「皇居の緑を核とした生態系ネットワークの形成・強化」において実施してまいります。また、「プラネタリー・バウンダリー」という地球の限界点を意識したうえで、第1章において、千代田区は在勤・在学者等が在住者を大きく上回るため、区を超え、多様な主体との連携が持続可能な社会づくりに欠かせないこと、また一人ひとりの行動変革が重要であることを記載しています。 具体的な行動計画としては「エコロジカル・フットプリントの見える化」を一つの取組みとして掲げ、この指標のもと推進プランの取組みと成果を客観的に評価するとともに、区内外への協力・連携を進めていきます。	区内の事務所または事業所に勤務する方
	その他【推進プランの対象以外を含む】		
10	①子どもの自然に目を向けるための心と時間の余裕をつくる取組みを行ってほしい。虫を嫌う大人(保護者)の影響で子どもも虫を嫌うことを認識し、自然と疎遠になるのではないか。放課後や週末の塾通い・習い事を優先するのではなく、「子どもの権利条約」を守り児童が「児童」でいられる時間を作るべきである。そのために「塾や習い事に行かなくてよい日」を区で決め、自然と触れ合う機会を作ることもよいだろう。	①本計画は、生物多様性の推進に関する計画ではありますが、ご意見として受け止めさせていただきます。	区内に住所を有する方
11	②千代田区も東京都も、今、日本全体がそうと言えますが、行政の言っていることとやっていることの乖離が大き過ぎてうんざりしています。 自然を大切にといいながら木々を伐採したり必要のない開発をしたり原発処理水を海洋放出したり、戦争を起こさないといいながら武器を買ったり核を手放さなかったり戦争している国を後押ししたり、次々と税金を増やし納税しろと言いつつ自分たちだけ脱税したり裏金で潤ったり、もう不信しかありません。 どうしたら真つ当な政治を行ってくれるのでしょうか。	②本計画は、生物多様性の推進に関する計画ではありますが、ご意見として受け止めさせていただきます。	区内に住所を有する方